

月例会ダイジェスト【56】

2050年に世界人口が90億人に達する予測を見据えて国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs = Sustainable Development Goals)」の達成に向け、日本でもサステナビリティへの貢献をうたう企業が増えている。一方、わが国の医療制度の特徴である国民皆保険制度のシステムについて、WHO (世界保健機関) では世界中への普及を目指している。今回のさんぽ会は、「グローバル視点からみた産業保健とサステナビリティ (SDGs)」と題し、救急医から米国ジョンズホプキンス公衆衛生大学院、世界銀行勤務を経て、現在はグローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) シニア・ディレクターの鹿角契氏、膠原病内科医から専属産業医、米国ハーバード大学公衆衛生大学院を経て、北里大学医学部衛生学講師を務める武藤剛氏を講師に迎えて開催された。コーディネーターは伊藤忠テクノソリューションズ(株)の金森悟氏、(株)ウイズダムアカデミーの高倉孝生氏、武藤氏の3人。

最初に講演した鹿角氏は、発展途上国の感染症に対して官と民が団結して新薬やワクチンなどを開発する基金であるGHIT Fundの紹介をした。アフリカや東南アジアなどの途上国では、デング熱などの熱帯病に苦しむ人が世界の患者の5分の1いるが、それに対する途上国向けの薬は世界全体の100分の1しかない実態を説明。背景に、「製薬会社が高い利益を得られる日本や欧米においてもみられる疾患に対しては、新薬の開発が進むが、途上国を中心に蔓延する、いわゆる“儲からない”疾患は顧みられていない」と解説した。

GHIT Fundは、資金の半分を日本政府、残りの半分を国内製薬企業、海外の財団等が拠出して2013年に設立した。日本と海外の機関によるパートナーシップが組んで行う研究開発に、助成の形で“投資”する公益社団法人だ。「儲けはゼロ。企業側にただ慈善事業という視点だけではなく協力を得られず、例えば中長期的に人口が減り市場縮小が見込まれる先進国のみならず、逆に人口が増える途上国や新興国に新しい市場を開拓することは将来的な利益にもつながりうる」点も説明し、企業を巻き込んで活動しているという。

「高いモチベーションを維持してプロジェクトを進めることは非常に重要」で、産業保健とつながる部分であることを指摘。「臨床の現場の場合、医師、看護師、その他の職種を含めて、方向性はある程度一致するが、多様な

人材が集まる官民パートナーシップという組織においては、どういう心構えで働いていかなければいけないか、社員の動機づけが大事」と述べた。

続いて、武藤氏がハーバードでの留学経験を基に海外から見た日本の医療について講演した。ハーバードのあるマサチューセッツ州での公衆衛生上の課題は①統、②差別、③アディクション (依存症) だったとし、日本での課題の筆頭に挙がるのがタバコであることに、「『イノベティブで国民皆保険がある日本でいまだタバコが課題なのか?』と教員や学生に驚かれた」というエピソードを披露。また、街中に公衆衛生に関する広告などがあり、「医療、健康と住民が非常に近い関係だと感じた。米国でいう『パブリック・ヘルス』は、社会的なもの、文化的なもの、疫学、遺伝子などすべてを含み、日本での『公衆衛生』よりも領域が広いと実感した」と感想を語った。

サステナビリティを考える上で「一番大事なのは公衆衛生が何を指すかで、健康格差を縮める方向にベクトルを設定することが非常に重要だと学んだ」と述べ、財政が厳しい中で日本の健康格差も今後広がっていくことを見通し、「それを縮めていく政策を打ち出さなければいけない。それは私たちの働き方次第」と訴えた。そして、定期健診の機会があっても受療行動につながらない現状に触れ、「産業保健は、日本人皆が持っている国民皆保険の権利を、いかに活用するかを促すのが視点として大事だと思う」と力を込めた。

後半、指定発言として、産業医の紹介を行っているVeritas Japan代表取締役の中川隆太郎氏が、同社関わったストレスチェック受検者が昨年約1万人で高ストレス者は1,200人以上いたことを紹介。うち外国人は56人で事後面談に至った人はいなかったが、「外国語しか話せない人」とどのように事後面談するかは今後の課題」と指摘した。この後、今回の月例会で気になったキーワードをスマートフォンで投票する試みを初めて行い、グローバルやサステナビリティなどが上位に挙がった。この結果が示すように、この日は、グローバルな視点の大切さ、海外から見た日本の医療と産業保健の持続可能性と課題を浮き彫りにした。

最後にさんぽ会の福田洋会長が「自分たちは絶対にいいことをしているはずだが、経営者や一般社員に理解してもらうことは難しい。いかに対象者を巻き込むかが大事。動画などで『見える化』して伝える技術も必要だと痛感した」との感想で締め括り、閉会した。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>